

総合計画2023の策定案への反対討論 江上博之議員(9月27日)

10年20年を見通し希望が持てる総合計画を 人口減少・少子高齢化を加速させる市の総合計画を批判

9月27日の市議会本会議で名古屋市総合計画2023(計画期間5年)の策定について採決が行われました。総合計画は土木交通委員会での審議を踏まえ、総務環境委員会で一部が修正されたため、原案及び修正案についての討論・採決が行われました。江上議員の討論を紹介します。

市民の不安にこたえていない

江上議員は総合計画について「減り続ける年金、消費税増税と市民不安は増えています。10年、20年を見通した希望が持てる総合計画になっていない」ことを指摘し、総合計画の「希望する誰もが結婚し安心して子どもを産み育てることができる環境づくり、・・・関東圏への転出超過の解消などにより、社会の支え手を増やす」という点も、「具体策を見ると、非正規労働・低賃金・長時間労働を増やし、人口減少や少子高齢化を加速させるもの」と厳しく批判しました。

非正規雇用拡大・大型地下道や天守閣木造化・金持ち減税などはやめよ

江上議員は主な反対理由としてを5点を示しました。

・第1：運営費の削減＝人件費の削減となって非正規労働を増やす指定管理者制度、民間資金活用のPFI手法

をさらに進めることになる。

・第2：リニア完成で、名古屋駅一羽田空港まで1時間強となり東京一極集中はさらに進みます。ささしま地下通路建設や中部国際空港第2滑走路は必要ない。

・第3：市民合意もない建設費505億円の名古屋城天守閣木造復元はいったん立ち止まって市民の声を聞くべき。

・第4：隠れ待機児童解消のためにも公立保育園廃止計画は中止すべき。

・第5：金持ち優遇の市民税減税は廃止すべき。

相生山道路の復活修正は認められない

「相生山緑地事業の推進」に係る修正案については、道路事業の存廃を棚上げしたままの緑地基本計画の策定はあり得ず、道路事業の廃止、およびそれと一体的に推進する渋滞対策等を計画に明記すべき、と修正事項を批判しました。

以上の点を指摘し、市民に暮らしの希望を示す計画を求めて反対の討論を行いました。採決の結果、修正案及び修正案を除いた原案が可決(修正可決)しました。



総合計画2023から「相生山の道路」が消えた

本日の市議会では、今後5年間の名古屋市の総合計画が一部修正のうえ賛成多数で可決されました。日本共産党は原案にも修正案にも反対しました。

「道路廃止」関連事業を削除 総合計画に一切記載なし

修正されたのは、「相生山緑地事業の推進」に係る記述です。弥富相生山線の道路事業の廃止に関連する野並交差点・島田交差点の渋滞対策と相生山緑地近隣の通過交通対策の実施についての記載が削除されました。これは、市議会土木交通委員会で「道路関連事業は緑地事業と区別して記載すべきだ」など、猛烈な指摘があったからです。今年6月に出された当初の総合計画案には、「弥富相生山線の道路事業は廃止し」という文言が明記されていましたが、議案の段階でこの文言が削除されました。さらに道路関連事業も修正削除されたことによって、総合計画から弥富相生山線に関

する記載が一切なくなりました。

緑地計画は道路廃止が前提

修正された「相生山緑地事業の推進」では、「相生山緑地の基本計画の策定」が掲げられています。しかし、緑地の基本計画は弥富相生山線の道路事業を廃止することを前提に検討が進められており、道路事業の存廃を棚上げしたままの基本計画の策定はありえません。本会議の反対討論で日本共産党は「道路事業の廃止、およびそれと一体的に推進する渋滞対策などを計画に明記すべきだ」と求めました。

「減税」も自・民・公の修正に賛成

総合計画から弥富相生山線に関する記述が消されたことによって、道路事業廃止の都市計画変更に向けた市の取り組みにブレーキがかかるでしょう。道路事業の廃止は河村市長の判断ですが、市長与党の減税ナゴヤも今回の修正に賛成しました。まったく不可解です。